



世界を旅する

会員 梅田 康宏 <53期>

旅のはじまり

ユカタン半島のジャングルにたたずむマヤ文明の遺跡をこの目で見たい。子供の頃からの夢をかなえるためにメキシコとグアテマラを訪れたのが大学1年の終わり頃。中米の深いジャングルに点在するピラミッド群は私に強烈な印象を残したが、それ以上に私は、この1か月半ほどの旅の間に旅することそのものの魅力に取り憑かれてしまった。大学在学中は夏休み春休みには必ず1か月前後の旅に出るようになり、バイト代の多くは旅に費やした。主に東南アジアや中東など、自然や遺跡のあるところを中心に訪れた。

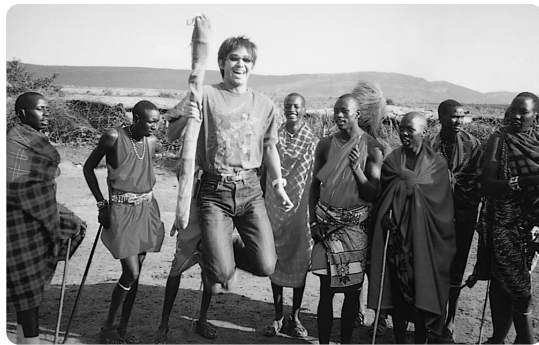
大学4年になると、多くの時間は司法試験の準備に費やされるようになり、旅から遠ざかった。しかし、大学を卒業して司法試験に合格すると、また旅に出たいという欲求が強くなり、司法修習を見送って延べ14か月に及ぶ旅に出た。数千メートルの山を数日かけてトレッキングしたり、ボルネオのジャングルで動物観察小屋に籠もって野生動物を観察したり、レンタカーで砂漠を横断したりもした。南極大陸も訪れ、全ての大陸を制覇した。

なぜ旅なのか

世界には、自分が見たこともないような動物が生息する自然があり、見たこともないような美しい街や歴史のある街があり、そこで文化や生活を営んでいる人たちがいる。せっかくこの世の中に生まれてきたのに、そういったものを見ないままでは余りにもったいない。

世界中それぞれに良さがあるが、西アジアから北アフリカにかけてのイスラム圏がとても気に入っている。イランにしてもヨルダンにしてもエジプトにしてもモロッコにしても、イスラムの人たちは総じて気さくで旅行者に対してとてもやさしい。旅先で知り合

った人たちに食事に招かれたりすることもここではごく普通だ。こうした人のやさしさも実際にそこを訪れてみないことには分からない。



マサイ族の村（ケニア）

今もつづく旅

今年初め、11年ぶりに中米グアテマラを訪れた。初めての海外だった前回と、世界中を旅した後の今回とでは受ける印象は異なるのだろうか。再訪したグアテマラ北部は、深いジャングルも、そこに屹立するスラリとしたピラミッド群も、苔むした多くの遺跡も全く変わらず、イメージ通りに残っていた。11年前の記憶と現在の風景とが重なり、初めての時とはまた違う感慨深さのようなものを覚えた。

幸い今の職場は休暇を取ることに理解があり、毎年2〜3回は10日前後の旅に出ている。昔に比べれば短い旅だが、仕事をしている身としては貴重な時間だ。これまでに訪れた国は約70か国。これまでの旅の軌跡を綴ったホームページは、旅行雑誌やパソコン雑誌などで度々取り上げられ、これもまた大きな趣味の1つになっている。

私にとって旅は趣味と言うよりも生活の一部になっているように思う。年齢や仕事の状況にも応じて、行き先や旅のスタイルの好みも変わってきている。再訪の楽しさも分かった。そうした変化も楽しみながらこれからも旅を続けていきたい。